

# しだみ東学区通信

Shidami East School district Communication News

◆編集・発行  
志段味東学区連絡協議会  
学区通信編集委員会  
名古屋市守山区大字  
中志段味字宮前 1175-1  
志段味東コミュニティ  
センター内  
TEL&FAX 052-736-4506

## 名古屋市説明会—5月21日開催 市の支援 住民負担が条件 組合管理から外れた道路整備、新たな負担へ

名古屋市が主催する「区画整理から外れた地区の道路等に関する説明会」が5月21日、サイエンス交流プラザで地区ごとに3回に分け開催され、三地区合わせて約300人が参加しました。

令和3年12月の組合総会で承認された中志段味特定土地区画整理事業再建計画（令和4年12月名古屋市認可）により、事業区域（変更前192ha）から外れた地区（44ha）の道路・水路における維持管理、狭あい道路の拡幅整備、下水道整備等について、名古屋市住宅都市局市街地整備課から説明がありました。

担当者からは、区画整理の施行地区縮小までの経緯と合わせ、①これまで組合が行っていた道路・水路の管理が市や土地所有者に戻ったこと、②区画整理から外れたことにより、道路・水路の新たな整備は行われず、現状が基本となること、③ただし、一定の負担（用地寄付等）、関係地権者（地域住民）全員の合意ある場合は市が拡幅整備を支援する、④市の管理する道路の下水整備については流れ先（継続地区）の下水道整備が完了後となる——と説明。また、区画整理から外れた地区の市が管理する道路のうち、



継続地区でも道路整備の遅れが目立つ

拡幅検討路線（幅員4m未満）については地権者の負担により支障物の撤去、拡幅用地の土地の分筆・寄付などについて関係地権者の同意があれば市が整備を行う。さらに、拡幅検討路線以外の道路、いわゆる「私道」は、現道部分の地権者同意、行止まりの解消など関係地権者（住民）負担が別途必要になるとしました。

参加者からは、①当初、自宅を建てる時に組合からの求めでセットバックを余儀なくされた。今回外れたことにより使い勝手の悪い無駄なスペースとなってしまった、②年金生活で障害物の撤去など新たな負担はできない、③国有地（

農水省所管）が地域内にあり、合意形成がとれない。市が国に対して寄付するよう働きかけるべきでは、④建築基準法の道路として扱われない私道も建築基準法43条但し書き道路にできないのか、⑤一部用地を寄付することにより建築基準法（外壁後退等）に抵触する可能性がある。また、用途地域の変更はできないのか——など、多くの意見がでました。

担当者からは、①組合の事業再建による区域縮小のため、市が配慮することは難しい、②拡幅整備は沿道の皆さまの負担を前提とした合意が必要であるが、市として強制するものではない、③国や管理者の県に対して市への譲渡について要望しているが、現在まで了解は得られていない、④私道に接している敷地でも、交通上、安全上、防火上、支障がないなど許可基準に適合すれば建築は可能、⑤支障物の撤去は建替え時期等をお願いしたい。用途地域

の変更は、区画整理などの公共施設の整備にあわせて行うものと考えている——などと回答がありました。

三地区それぞれの説明会に参加した鎌倉委員長は「予想以上に多くの住民が参加しており、個別ではあるが問題意識を持って参加していた。28年近くも整理の網がかけられてきた地区であり、区画整理から外れたといってもこれまでの歳月は取り戻すことができない。確かに減歩という負担はなくなったが、道路・水路の整備という新たな負担が明らかになってきた。とりわけ高いところから低いところへ流れる雨水排水の問題は大きく、これから想定される豪雨災害には学区としても対策が必要で、継続地区、除外地区に関わらず、地区全域の雨水排水計画を明らかにするよう名古屋市に対しても強く要望していく」との見解を示しました。※市に対する要望については、すでに提出済み。

### 消えた！？「地域環境改善地区」

今回の説明会では「区画整理から外れた地区」という文言が終始使用され、従来の「地域環境改善地区」という名称は一切使われなかった。

なぜ使わないのかとの質問には、とにかく分かりやすく説明するためとだけ答弁。環境改善地区という、ある意味希望が持てるような名称を当局は嫌ったのではないかと、市の責任回避とも取られかねない説明となった。

地域環境改善地区という名称は再提案提案当初から使用されてきており、組合事業から切り離されたとしても、何らかの形で市が支援してくれるとのイメージを持つ地権者は多かったはずである。耳あたりの良い言葉で提案し、承認されれば呼び方を変える——今回の説明会では、生活道路や雨水排水の整備など現状維持が基本としており、区画整理から外れた地区は市の関与はほぼなく、すべて自己責任で解決しろという流れだ。現状が如何に劣悪な環境にあるのか、地域住民だけでどのように改善していくのか、少なくとも行政側も推奨してきたはずの「地域環境改善地区」という名称を、今になって「消去」してしまう行為は許されないはずだ。



## まちかどインタビュー vol.7

### ご縁を大切に——共に和し、共に楽しむ

今回の取材は、旧来の組織体制や地域間の垣根を越え、中志段味地区全体のまちづくり、地域力アップをめざす「しだみ元気プロジェクト」を立ち上げた藤井慶彦さんです。藤井さんは、自治会役員その他、区政協力委員、主任児童委員、保護司など様々な肩書を持つマルチ住民（笑）です。新たな発想とパワフルな活動で若い世代からの信頼も厚く、プロジェクトチームによる今後の地域活動が期待されています。そんな藤井さんのまちづくりへの思いを伺いました。



プロジェクトメンバーと意見交換する藤井さん

**Q. 自営業と伺っていますが、自治会など地域活動との両立は難しくありませんか。**

——仕事は施設の代表で土日関係なく決まった日で仕事しています。自治会と被るときは当然仕事を優先していますが、他の自治会役員さんのサポートもあり、それなりに努めています。

**Q. ご家族の構成を教えてください。また、お酒が大好きと聞いていますが、家族からの信頼度（笑）はいかがでしょう。**

——家族は妻と5人（男4人・女1人）の7人家族ですが、長男、3男が結婚し独立しており、末の娘は他県で看護師と別居なので、家には妻と2男、4男、それと施設でお預かりしている6人の方と暮らしています。お酒ですか…大好きです。家族からの信頼は私も知りたいです（笑）

**Q. 話は本題に入りますが、昨年の夏祭り（諏訪の原連自治会）では実行委員長として活躍されたとお聞きしました。携わって良かったことや苦労話があれば教えてください。**

——昨年コロナ禍で2年ぶりの夏祭りを開催でき本当に良かったと思います。祭りのテーマは『チャレンジ to チェンジ』で、変化への挑戦でした。コロナ禍で変化した生活、高齢化で変化した地域活動へ挑戦したのが昨年の夏祭りでした。急造の実行委員会でしたが、地域の人脈、地域の知恵、地域のパワーをすごく感じました。苦労話ですか？それはナイショです（笑）

**Q. 新しく立ち上げた「しだみ元気プロジェクト」について、その目的や組織の立ち位置について教えてください。**

——「しだみ元気プロジェクト」の母体は昨年の実行委員会ですが、メンバーの中から自治会の垣根を越えて、もっと志段味全体を元気にしたい。との声があり、中志段味を中心に、中志段味以外の志段味地域の方にもメンバーに加わっていただき、より活気溢れより助け合いができる活動をしていきたいと思っています。

**Q. 急速に開発（まちづくり）が進む志段味地区ですが、藤井さんから見て、今の志段味のまちづくりに足りないこと、必要なことがあれば教えてください。**

——上志段味、下志段味を見れば急速に開発は進んでいます。私が住む中志段味は高齢化が著しい地域です。しかしながら、開発が進んだ地域も40年後には高齢化を迎えます。それぞれ地域が抱える問題は違いますが、これはある面チャンスだと思います。これからは

▽『チェンジ to チャンス』（変化し、機会につなげる）で、発想や行動を柔軟にもって様々な人と、様々なつながりを通して発展していけばいいと思います。それにはまずつながりが構築できる場所づくりからではないでしょうか。

**Q. もうひとつ、全国的にも課題となっています自治会役員の成り手不足、何が原因だと考えますか、また何らかの対応策があれば教えてください。**

——諏訪の原でも役員の成り手不足は深刻な問題で、諏訪の原で言えば高齢化で担い手が少ないですし、役員になると面倒だ。という思いが一番大きな原因だと感じます。確かに役員になると時間的な拘束も増えますが、今後はそれをサポートしてくれる次代を担う人の集まる場所や行事があるといいなと思います。

**Q. 少し難しい話題になりましたが、最後に藤井さんのやりたいこと、夢を教えてください。**

——せっかく縁あってこの地域で共に生活している訳ですので、共に和し、共に楽しむことができれば一番です。ご協力ありがとうございました。

## 学区消防団、水防訓練で活躍

令和5年度守山区総合水防訓練が5月28日、矢田川左岸大森橋下流で開催され、区内消防団員136人及び区役所等関係する官公庁職員合わせて約230人が参加しました。訓練では、改良積土のう工法、トンパックによる積土のう工法、ボート組み立て訓練と三中隊に分かれ実施。我が志段味東消防団は一致団結し、手際良くボート組立を行うなど日頃の訓練の成果を発揮しました。



## 新中学校校名募集！！

令和8年の開校をめざし整備が進められている新中学校の校名について、建設準備委員会は5月12日、志段味中学校の分離校として上志段味、中志段味、下志段味、三地区の住民の皆様から校名を募集することとしました。応募用紙またはWEB（QRコード）から参加できます。応募締め切りは7月14日です。



**編集後記** 望んで外されたわけではない——説明会場で放たれた一言が印象的でした。区画整理から外れた地区の住民も同じ名古屋市民です。市のまちづくりから除外されたわけではありません▼明るい話もあります。しだみ元気プロジェクトは未来を見据えた新しい発想で活動しています。無関心ではられないまちづくり、元気プロジェクトの活動に期待します▼異常気象が続いています。中でも線状降水帯なるものは過去に例がないほどの大水害をもたらします。平常時だからこそ訓練が必要です。休日でも家族の理解を得ながら活動する消防団の皆様へ改めて敬意を表します▼明るい話題はまだあります。全国的に少子化傾向にある中、新しい中学校が誕生します。地域にとってこんな明るい話題はありません。たかが校名かも知れませんが、地域の皆さんが名付け親になるプロセスを大いに楽しみたいと思います（K）